平成 22 年度　事務事業評価シート(平成 21 年度実施事業)

整理番号	教生社12

事務事業名	青少年野外活動施設整備事業		
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	3	次代を担う子どもを育むまち
	施策(節)	3	青少年の健全育成
	施策の方向	(2)	健全育成の環境づくり
関連する計画等			

予算科目		
会計	1	一　般　会　計
款	10	教育費
項	5	社会教育費
目	2	青少年育成費
事業	55	青少年野外活動施設整備

作成部署	教育委員会事務局生涯学習室社会教育課
連絡先	072 - 958 - 1111　　内線　4452

事業の目的

対象（誰を・何を）

主として青少年

意図（どういう状態にしたいのか）

自然とふれあえる体験活動の場を提供し、野外活動を通じて青少年の健全な育成を図る。

事業の内容

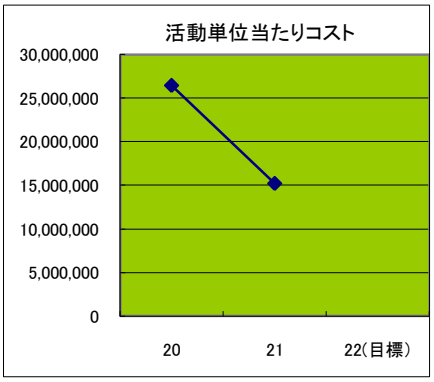
平成２１年度より、駒ヶ谷グレープヒルスポーツ公園キャンプ場「ふれ愛広場」や平成２２年度にオープン予定の同スポーツ公園の管理棟に宿泊室を整備する。

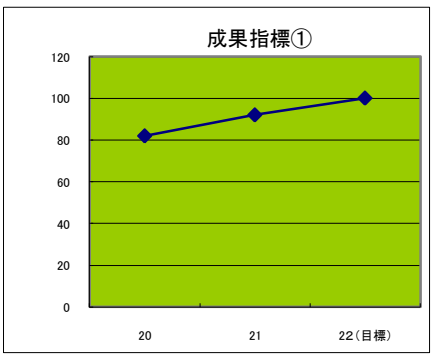
ふれ愛広場には、芝生張りのキャンプ施設を８サイト、芝生すべり、ロープクライミング、船形遊具、砂場、噴水施設、炊事施設、水飲み場、トイレ、歓談施設などを整備

根拠法令等	羽曳野市立グレープヒルスポーツ公園条例
事業開始時期	☐ 昭和　20 年開始　☐ 明確にはわからない　☑ 平成　☐ 市制施行（昭和34年）以前より行っている
終了年度	平成 22 年度
事業開始時からの状況変化	平成２１年度にグレープヒルスポーツ公園にふれ愛広場をオープンした。また、平成２２年度に宿泊室をオープンする予定。
市民や議会の要望	身近で手軽に利用できる野外活動施設として、より充実した施設になるよう要望がある。
実施手法	☐ 直営　☐ 一部委託　☑ 全部委託　☐ 補助金・助成金　☑ その他（　　）
委託先	☑ 市外郭団体委託　名称（　羽曳野市施設管理公社　）　☐ 民間委託　☐ その他
委託内容	グレープヒルスポーツ公園管理業務委託

区分			20年度（実績）	21年度（実績）	22年度（見込み）
事業費【1】		（千円）	49,854	12,193	9,000
人件費【2】		（千円）	3,000	3,000	375
職員数	正規職員		0.40 人	0.40 人	0.05 人
	再任用職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
超過勤務(参考)		（時間）	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費（【1】＋【2】）【A】		（千円）	52,854	15,193	9,375
財源内訳	国費	（千円）			677
	府費	（千円）			
	市債	（千円）			
	その他（手数料・使用料等）	（千円）			
	一般財源	（千円）	52,854	15,193	8,698

活動指標(事業の活動実績)【B】	単位	20年度	21年度	22年度(目標)
① 設計契約件数	件	2	1	
② 工事請負契約件数	件	1	1	1
③				
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)		26,427,000 円	15,193,000 円	円
市民１人当たりコスト(【A】／人口)		442 円	128 円	79 円





成果指標（事業目的の達成度を測る指標）

	指標名	単位	指標設定の考え方		平成20年度	平成21年度		平成22年度
①	ふれ愛広場整備率	%	事業の進捗状況	目標	100	100	達成率(%)	100
	(式) 事業決算÷（事業計画＋決算額）(累計)			実績	82	92	92.0%	
②				目標			達成率(%)	
	(式)			実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	青少年の健全育成を推進するにあたり、ｷｬﾝﾌﾟなどの野外活動を手軽に体験できる環境づくりを行う。
		○						○			

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☑	☐	☐	手軽に利用できる身近な野外活動施設を整備することは、市民ニーズに合うものと考える。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☑	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☑	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☑	☐	
		国・府の事業と重複していない	☑	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☐	☐	☑	
		緊急性が認められる	☐	☐	☑	
	効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☑	☐	☐	一時的なコストはかかるが、スポーツ公園内に整備することにより、利用料収入や管理の一元化など、管理費用の軽減を見込むことができる。
		受益者負担の割合は適当である	☑	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☑	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☑	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☑	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☑	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない	☐	☐	☑	
	有効性	上位の施策（目的）が明確である	☑	☐	☐	青少年の健全育成という施策目的は明確で、有効に活用できる。
		上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☑	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☐	☐	☑	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☑	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☑	☐	施設管理の一環として、利用者のニーズ把握など、意見の収集に取り組んでいる。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☑	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☑	☐	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☑	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☑	☐	☐	事業は２２年度にほぼ完了し、今後の指標は利用の促進に移行する。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☑	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☑	☐	

担当部局評価

総合評価

☐ 拡大・充実 ☑ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了

評価の理由

ふれ愛広場及び宿泊棟の整備事業は２２年度中に完了する。

今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）

整備事業は平成２２年度に完了予定であり、今後、施設の適切な運用と運営経費の削減、利用促進等について、指定管理者と十分に協議を行っていく。

行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	